

各位

病害虫防除所長

平成21年度病害虫発生予察技術情報資料(第5号)の送付について

普通期稲のトビイロウンカ発生状況について

本年は九州を中心にトビイロウンカの警報・注意報が相次いで発令され、高知県内も近年では多発生で推移しています。そこで、県内の水稻(普通期稲)において、8月中下旬に実施したトビイロウンカの発生状況の調査結果及び予察灯への飛来状況等について資料を送付しますので、今後のトビイロウンカの発生動向に注意するとともに、防除指導の参考にしてください。

記

本年のトビイロウンカの発生状況は、表1のとおり県東部と西部で発生面積が多くなっています。また、予察灯での誘殺数(表2)や飛来予測システム(表3)を参考にウンカ類の飛来状況を判断すると、6月から7月にかけて断続的に飛来があったものと予測されます。現在、普通期稲の生育ステージは穂揃期～乳熟期と収穫までに日数がかかる圃場が多いと思いますので、坪枯れ等の被害を出さないように注意してください。参考までに6月30日～7月20日に飛来したトビイロウンカの次世代以降の発生時期を各積算温度により予測すると、表4のようになります(中齢幼虫期を防除適期に設定)。

防除にあたっては、農薬安全使用の遵守および周辺の食用農作物への飛散防止対策についてご指導をよろしく願います。

なお、トビイロウンカの警報は宮崎・鹿児島県の2県、注意報は千葉・広島・和歌山・熊本・大分・長崎・山口の7県で発令されています(9月1日現在)。

表1：普通期水稻におけるトビイロウンカの発生面積(8月末現在、ha)

	栽培面積	本年(発生面積率)	平年
東部	481	158.7(33%)	1.4
中央部	1434	18.4(1%)	10.2
中西部	2572	0.0	67.5
西部	1072	203.7(19%)	12.0
合計	5559	380.8(7%)	91.1

